

江戸東京博物館、4月1日(日)再オープン
東洲斎写楽、喜多川歌麿の浮世絵ベストコレクションを公開!
さらに再オープン記念 WEEK「EDO→TOKYO VISION」開催!
「しりあがり寿」「鶴澤寛也」らによるライブパフォーマンス&トークセッション
「レキシ」スペシャルライブ等、江戸東京の歴史・文化とつながる一週間

東京都江戸東京博物館(東京都墨田区、以下:江戸東京博物館)は、この度、半年間の全館休館を経て、4月1日(日)に、再オープンいたします。



江戸東京博物館は、江戸・東京の歴史に触れ、理解を深めることができる場所として、国内だけでなく、国外からも数多くの方々にご来館いただいています。今回の再オープンでは、より多くの方々にご来館・お楽しみいただける場所づくりを目指し、ミュージアム・ショップ、レストランが新しくオープンするほか、快適にお過ごしいただけるよう、エレベーター、トイレ等の館内施設の更新を行いました。そして、再オープンを記念して東洲斎写楽の「市川鰻蔵の竹村定之進」、喜多川歌麿の「歌撰恋之部 物思恋」を常設展示室にて初公開します。

また4月1日(日)・7日(土)には、トークセッションなどの催物を開催します。江戸時代から現代の東京に受け継がれてきた普遍的なものとは何か。伝統的な“もの”や“こと”を現代の暮らしに活かし、持続可能な社会を実現するためには何が必要か。「美意識」と「サステナブル」をキーワードに、異なった分野で活躍する専門家やアーティストによるクロストークやパフォーマンスを通じて、江戸からつながる今と、これからの東京を考えます。

江戸東京博物館では、今回の再オープンを機に、歴史ファンの方々に加え、これまで江戸東京博物館を訪れたことがない方や、東京観光に訪れた外国人の方にも、江戸東京の歴史・文化、そしてそれらの上に成り立つ現在、さらにはこれからの東京にも興味関心を持っていただけるよう、東京の文化創造の拠点として、今後も様々な取組を進めていきます。

＜本件イベントに関する報道関係者からのお問い合わせ先＞共同ピーアール株式会社 第6業務局 山本健一
TEL: 03-3571-5236 / FAX: 03-3574-9364 / E-mail: kenichi.yamamoto@kyodo-pr.co.jp

＜博物館や企画展に関するお問い合わせ先＞東京都江戸東京博物館 管理課事業推進係: 田中、長屋、丸山
TEL: 03-3626-9907 / FAX: 03-3626-8001 / E-mail: kouhou@edo-tokyo-museum.or.jp

4月1日（日）からの主な催し

(1) 再オープン記念 WEEK 「EDO→TOKYO VISION」江戸東京の歴史・文化とつながる一週間

①4月1日（日）テーマ：「受け継ぐ美意識」

14：00～15：30 ライブパフォーマンス、トークセッション

②4月7日（土）テーマ：「サステナブルな暮らし」

14：00～15：50 落語、トークセッション

18：00～19：00 スペシャルライブ

【主催】東京都江戸東京博物館

【会場】東京都江戸東京博物館 常設展示室内 中村座前

【費用】4月1日（日）のみ入館無料。以降の日程は常設展観覧料（一般：600円）が必要となります。

(2) NHKスペシャル関連企画「大江戸」展

【会期】平成30年4月1日（日）～5月13日（日）

【会場】東京都江戸東京博物館 常設展示室内 5F 企画展示室

【主催】東京都、東京都江戸東京博物館、NHK

【費用】4月1日（日）のみ入館無料。以降の日程は常設展観覧料（一般：600円）が必要となります。

(3) 特集展示「写楽の眼👁️恋する歌麿—浮世絵ベストコレクション—」

【会期】平成30年4月1日（日）～5月6日（日）

【会場】東京都江戸東京博物館 常設展示室 5階 江戸ゾーン「江戸の美」、「芝居と遊里」コーナー

【主催】東京都、東京都江戸東京博物館

【費用】4月1日（日）のみ入館無料。以降の日程は常設展観覧料（一般：600円）が必要となります。

概要

(1) 再オープン記念 WEEK 「EDO→TOKYO VISION」江戸東京の歴史・文化とつながる一週間

※1日と7日の再オープン記念イベントは全て取材が可能です。実施内容の詳細が決まり次第、改めてお知らせします。

①4月1日（日）テーマ：「受け継ぐ美意識」

江戸時代は、日本においてアートが大衆のものとなっていった時代。以来四〇〇余年、現代を生きるクリエイターたちに受け継がれているものは何か、トークとパフォーマンスを通じて、江戸の美意識とその可能性を探ります。

●ライブパフォーマンス

【出演】しりあがり寿（漫画家）・鶴澤 寛也（女流義太夫三味線）

●トークセッション

【出演】橋本 麻里（ライター・エディター）※コーディネーター

岡塚 章子（東京都江戸東京博物館 学芸員）・しりあがり寿（漫画家）・鶴澤 寛也（女流義太夫三味線）・天明屋 尚（現代美術家）

■4月1日(日) イベント出演者

はしもと まり
橋本 麻里



日本美術を主な領域とするライター、エディター。公益財団法人永青文庫副館長。新聞、雑誌への寄稿のほか、NHKの美術番組を中心に、日本美術を楽しく、わかりやすく解説。著書に『美術でたどる日本の歴史』全3巻(汐文社)、『京都で日本美術をみる [京都国立博物館]』(集英社クリエイティブ)、『変り兜 戦国のCOOL DESIGN』(新潮社)、共著に『SHUNGART』『原寸美術館 HOKUSAI100!』(共に小学館)、編著に『日本美術全集』第20巻(小学館)。ほか多数。

おかづか あきこ
岡塚 章子



筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程修了。博士(芸術学)。東京都写真美術館、東京都庭園美術館を経て、現在、東京都江戸東京博物館都市歴史研究室学芸員。主要展覧会企画に「写された国宝」展(2000)、「庭園植物記」展(2005)、「建築の記憶」展(2008)、「140年前の江戸城を撮った男 横山松三郎」展(2011)、「浮世絵から写真へ 一視覚の文明開化」展(2015)など。「横山松三郎」展で2012年日本写真協会賞学芸賞、「浮世絵から写真へ」展図録掲載論文で2015年美連協カタログ論文賞優秀論文賞を受賞。

ことぶき
しりあがり 寿



1958年静岡市生まれ。1981年多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業後、キリンビール株式会社に入社し、パッケージデザイン、広告宣伝等を担当。1985年単行本『エレキな春』で漫画家としてデビュー。パロディーを中心にした新しいタイプのギャグマンガ家として注目を浴びる。1994年独立後は、幻想的あるいは文学的な作品など次々に発表、新聞の風刺4コママンガから長編ストーリーマンガ、アンダーグラウンドマンガなど様々なジャンルで独自の活動を続ける一方、近年では映像、アートなどマンガ以外の多方面に創作の幅を広げている。

つるざわ かんや
鶴澤 寛也



1984年 鶴澤寛八に入門 寛也となる
1985年 初舞台
1993年 豊澤雛代の預かり弟子となる
2007年 鶴澤清介の預かり弟子となる
2009年 義太夫節保存会会員となる 重要無形文化財総合指定保持者認定
(財)清栄会奨励賞 (財)人形浄瑠璃因協会女子部門賞 (財)ポーラ伝統文化財団ポーラ奨励賞など授賞
(一社)義太夫協会、(株)吉田正樹事務所所属
国立劇場竹本研修講師 京都造形芸術大学非常勤講師
『はなやぐらの会』主宰 HP tsuruzawakanya.com

てんみょうや ひさし
天明屋 尚



1966年東京生まれ。現代美術家。日本伝統絵画を現代に転生させる独自の絵画表現「ネオ日本画」を標榜し、権威主義的な美術体制に対して、絵で闘う流派「武闘派」を2000年に旗揚げ。2010年には、南北朝期の娑婆羅、戦国末期の傾奇者といった、華美(過美)で覇格(破格)な美の系譜を“BASARA”として提唱。主なグループ展に、2002年「天明屋尚と暁斎展」(埼玉、河鍋暁斎記念美術館)、2003年「The American Effect」(ニューヨーク、ホイットニー美術館)、2006年「ベルリン - 東京展」(ベルリン、ベルリン新国立美術館)、2010年「第17回シドニー・ビエンナーレ」(オーストラリア、シドニー)、「BASARA展」(東京、スパイラル)を主催・企画・キュレーション。2014年「異形の楽園:池田学・天明屋尚 & チームラボ」ジャパン・ソサエティ(ニューヨーク、アメリカ)など。

②4月7日(土) テーマ:「サステナブルな暮らし」

江戸時代の暮らしの知恵を知ることで、東京の未来のライフスタイルが見えてくる。サステナブルやリユースなどをキーワードに、江戸の専門家と現代の活動家たちを交え、これからの東京を楽しくサステナブルに生きるヒントを探ります。

●落語

【出演】古今亭菊千代（一般社団法人落語協会 真打）

●トークセッション

【出演】辻 信一（文化人類学者、環境運動家）※コーディネーター

アズビー・ブラウン（デザイナー・作家）・古今亭菊千代（一般社団法人落語協会 真打）・

末吉 里花（一般社団法人エシカル協会代表理事）・ソーヤー海（共生革命家・東京アーバンパーマカルチャー創始者）・藤森 照信（東京都江戸東京博物館館長）

●スペシャルライブ ※約40分のアコースティックライブを予定しております。

【出演】レキシ

日本の歴史に造詣が深く、ファンキーなサウンドに乗せて歌う日本史の歌詞と、ユーモア溢れるステージングが話題を呼んでいるレキシのスペシャルライブ。

（参考）スペシャルライブの一般観覧について

- ・事前抽選で当選された方に、整理券を配布いたします。当日は原則として整理券をお持ちの方がのみが観覧可能です。
- ・事前抽選および整理券配布についての詳細は、3月26日（月）に江戸東京博物館のホームページにて告知いたします。
- ・博物館で行うライブとなりますので、客席には限りがあります。博物館の展示を観覧することが主目的のお客様の妨げとならないよう、ライブ観覧目的だけのご来館はお控えください。

■4月7日（土）イベント出演者

つじ しんいち
辻 信一



文化人類学者。環境運動家。明治学院大学教員。

「スローライフ」「GNH」「キャンドルナイト」などをキーワードに環境＝文化運動に取り組んできた。東日本大震災以後は、国内外で「しあわせの経済」や「ローカリゼーション」などの運動を展開。著書に『スロー・イズ・ビューティフルー 遅さとしての文化』など多数。

2009年より映像制作を手がけ、「アジアの叢智」（現在6巻）、『ヒルデガルト—緑のよろこび』など、DVDブックを刊行。

アズビーブラウン



1956年米国生まれ。

イエール大学にて彫刻・建築を学び1980年卒業。東京大学大学院工学部建築学科修士課程を1988年修了。金沢工業大学未来デザイン研究所創業者。

日本建築・デザインについての代表的な著書として、「The Genius of Japanese Carpentry」1989年初版、2014改訂版；「Small Spaces」1993年初版；「The Japanese Dream House」2001年初版；「The Very Small Home」講談社インターナショナル2009年に「Just Enough」出版された（講談社インターナショナル / Tuttle）。2011年に日本語版『江戸に学ぶエコ生活術』が出版された。

ここんでいきくちよ
古今亭 菊千代



昭和59年、古今亭円菊 門下に入門、平成5年に先輩の三遊亭歌る多師と共に江戸では初となる女性真打に昇進。以降、本来の寄席やホール、各落語会の出演のほか、手話と一緒に楽しむ落語、朝鮮・韓国語での落語、新作、自作品、エッセイ、また、南米など海外の日系の方々の前でも多数口演。子供のための「落語教室」を提案。落語好きな社会人の皆様を対象に都内2カ所、横浜で1カ所「落語教室」を開催。各教室年2回の発表会を主催。

著書に「古今亭菊千代噺家です」日本出版、平成26年3月『体験・子ども寄席』全5巻 偕成社より出版、好評発売中。

すえよし りか
末吉 里花



一般社団法人エシカル協会代表理事

慶應義塾大学総合政策学部卒業。TBS系『世界ふしぎ発見！』のミステリーハンターとして世界各地を旅した経験を持つ。フェアトレードやエシカルを中心に活動を展開し、日本全国の企業や自治体、教育機関などで講演、各地のイベントでトークショーを行う。著書に『祈る子どもたち』（太田出版）。新刊『はじめてのエシカル』（山川出版社）。消費者庁「倫理的消費」調査研究会委員（2015.5～2017.3）、東京都消費生活対策審議会委員、日本エシカル推進協議会理事、日本サステナブル・ラベル協会理事、NPO法人FTSN（Fair Trade Students Network）関東顧問、1% for the Planet アンバサダー、ピープルツリーアンバサダー <http://ethicaljapan.org>

ソーヤー海



共生革命家。東京アーバンパーマカルチャー創始者。1983年東京生まれ。

カリフォルニア州立大学サンタクルーズ校で「持続可能な生活の教育プログラム」を運営したのち、コスタリカのジャングルでパーマカルチャーの実践をする。

3.11をきっかけにアメリカから東京に活動拠点を移し、パーマカルチャーと平和活動の普及に励む。現在は千葉県いすみ市で【パーマカルチャーと平和道場】を設立中。

「都会からはじまる新しい生き方のデザイン URBAN PERMACULTURE GUIDE」監修

ふじもり てるのぶ
藤森 照信



建築史家、建築家

昭和21年長野県生まれ。東京大学大学院博士課程修了。東京大学教授を経て、現在は、江戸東京博物館館長。専門分野は建築史。近著に『磯崎新と藤森照信のモダニズム建築談義』六耀社、『近代日本の洋風建築 開化篇・栄華篇』筑摩書房等著書多数。近作に《多治見市モザイクタイルミュージアム》《ラ コリーナ近江八幡たねや 総合販売場・本社屋》等建築作品多数。

レキシ



福井県出身。1997年SUPER BUTTER DOGのキーボーディストとしてメジャーデビュー。

デビュー当時からアフロヘアがトレードマークで、プレイヤーとしてはもちろん、ライブにおけるファンキーなエンターテナーぶりと喋りのセンスも評価が高く、TVではイケチャンとしても活躍中。2017年は6月から全国14箇所のツアーを実施し、全公演ソールドアウト。また、10月には、大阪城西の丸庭園にて初となる野外公演、三度目の日本武道館で初の2DAYS、ツアーファイナルの沖縄公演を行い、全て完売。大盛況にて終了した。

(2) NHKスペシャル関連企画「大江戸」展

「大江戸」という名が史料に現れるのは18世紀中頃。江戸の推定人口が100万人を超えたあたりからです。この頃の江戸は、上方を凌駕する経済力を持ち、独自の文化を成熟させていました。1590年（天正18年）徳川家康の入封以前は、小さな城下町だった「江戸」がいかんにして政治・経済・文化の中心へと発展していったのか。「江戸の成り立ち」「江戸城の絵図」「火事と江戸」「水辺の風景」「写された風景」の5つの視点から、「大江戸」の繁栄の歴史を追い、巨大都市としての特性を見つめます。

この展覧会は今春に放送が予定されている、NHKスペシャル「シリーズ 大江戸」（全3回）の関連企画です。



東都名所 日本橋真景并二魚市全図 1830-43年 (天保中頃)

歌川広重/画 館蔵

展示期間：4月1日(日)～4月22日(日)

多くの人で賑わう日本橋を中央に、魚河岸、富士山、江戸城など江戸の名所の定番を全て描いています。題名にもある魚市は、画面下方で、魚を運び出す軽子や仲買が販売しているようすが見えます。日本橋川を往来する舟は、魚だけではなく酒や米俵も積み上げたりと、江戸経済の盛隆を知る情報豊かな作品です。

日本橋川の藍のグラデーションや、やすり雲も丁寧に美しく描かれています。



江戸始図 松江歴史館蔵

展示期間：4月24日(火)～5月13日(日)

昨年に発見され、話題を呼んだ、江戸時代初め頃の江戸城を描いた絵図です。始図という表題にあるように成立した17世紀後半頃に、考証して制作されたと考えられます。現在見ることのできるような江戸城が完成しつつあり、本丸・二の丸に高石垣が普請され、正式な登城路が確定した様子が確認できます。

関連事業

①NHKスペシャル「シリーズ 大江戸」

150年前に消えた史上最大のロスト・シティー いまその真実の姿がよみがえる

第1集 世界最大!! サムライが築いた“水の都” 4月29日(日) 21:00～21:55 (総合テレビ)

第2集 驚異の成長!! あきんどが花開かせた“商都” 5月27日(日) 21:00～21:49 (総合テレビ)

第3集 不屈の復興!! 町人が闘った“大火の都” 7月1日(日) 21:00～21:49 (総合テレビ)

※放送日・タイトルは変更される可能性があります。

②えどはくカルチャー (事前応募制)

慶長期の江戸城～「江戸始図」再考～

日時：4月24日(火) 14:00～15:30

齋藤慎一 (学芸員)

場所：墨田区みどりコミュニティセンター

③ミュージアムトーク (担当学芸員が展覧会をご案内いたします)

NHKスペシャル関連企画「大江戸」展みどころ 4月6日(金)・4月27日(金)

いずれも16:00から30分程度 ※常設展示室5階、日本橋下にお集まりください。

(3) 特集展示「写楽の眼👁️恋する歌麿—浮世絵ベストコレクション—」

浮世絵師 東洲斎写楽と喜多川歌麿は、すぐれた描写力により、18世紀後半を中心に江戸文化の最前線で活躍しました。版元の蔦屋重三郎によって才能を見出され、世に送りだされた2人の浮世絵、特に写楽の役者大首絵、歌麿の美人大首絵は、人々に新鮮な驚きを与えました。彼らの名作は現代でも高い人気を誇っています。

本展では、当館所蔵の写楽・歌麿浮世絵版画作品と関連資料30点を厳選し、展示します。この中には、初公開となる作品が含まれています。その一つ、写楽の「市川鯉蔵の竹村定之進」の力のこもった目の形象は、江戸東京博物館のロゴマークのデザインのもととなったものです。

特集展示「写楽の眼👁️恋する歌麿—浮世絵ベストコレクション—」見どころ

東洲斎写楽「市川鯉蔵の竹村定之進」、喜多川歌麿「歌撰恋之部 物思恋」を常設展示室5階「江戸の美」のコーナーにて初公開



初公開「市川鯉蔵の竹村定之進」東洲斎写楽/画 蔦屋重三郎/版 1794年（寛政6）

寛政6年5月に河原崎座で上演された「恋女房 染分手綱」にて、市川 鯉蔵（前名・五代目市川團十郎）が演じた竹村定之進を描く。堂々とした貫禄と風格を備えた鯉蔵の特徴を描き出し、写楽の作品の中でも最高傑作の一つ。力のこもった目の形象は、江戸東京博物館のロゴマークのデザインのもととなった。



初公開「歌撰恋之部 物思恋」喜多川歌麿/画 蔦屋重三郎/版 1793年（寛政5）頃

「歌撰恋之部」は、恋する女たちの表情の奥にある心の動きを描写した5つの主題による連作。歌麿絶頂期の美人大首絵として名高い。そのうちの1作である「物思恋」は、眉を剃り落とし、髪を 燈籠鬢 の字髷に結った年増の女性が、頬杖をつき物思いの表情を浮かべている。女性の心の内面を見事に表現した作品。

関連事業

①フォトスポット（巨大グラフィックバナー前で吹き出しをもって撮影）

4月1日（日）～5月6日（日） 会場：常設展示室5階 ミュージウム・ラボ前

②フォトスポット（写楽歌舞伎しぐさ・歌麿美人しぐさをマスターしてなりきり撮影）

4月1日（日）～5月6日（日） 会場：常設展示室5階 江戸ゾーン「芝居と遊里」コーナー隣

③日本髪を結うデモンストレーション—歌麿美人ができあがるまで

4月22日（日）14:30～ 会場：常設展示室5階 中村座前

歌麿の描く美人たちの髪型（燈籠鬢）を再現する髪結いの実演。

④記念グッズプレゼント：写楽の浮世絵トートバッグを先着 500 名に無料配布 4月1日（日）

⑤ミュージアムトーク（担当学芸員が展覧会をご案内いたします）

特集展示「写楽の眼👁️恋する歌麿—浮世絵ベストコレクション—」みどころ

※常設展示室 5 階、日本橋下にお集まりください。

【日本語のみ】 ①4月13日（金）、②21日（土）、③28日（土）、④5月4日（金・祝）

①④16:00～16:30、②③18:00～18:30

【英語通訳付き】①4月4日（水）10:30～11:00、②11日（水）16:00～16:30

■江戸東京博物館について

東京都江戸東京博物館は、江戸東京の歴史と文化をふりかえり、未来の都市と生活を考える場として 1993 年に開館しました。高床式の倉をイメージしたユニークな建物で、開館以来、東京を代表する文化施設として、国内をはじめ海外のお客様にも数多くご来館いただき、約 2500 万人（平成 5 年度から 29 年度まで常設展入館者数）が来館しました。

常設展は、徳川家康が江戸に入府してから約 400 年間を中心に、江戸東京の歴史と文化を豊富な実物資料や復元模型等を用いて紹介しているほか、常設展示室内 5F 企画展示室で開催される年 5～6 回の企画展に加え、講座や体験教室など様々な活動を展開しています。

施設名称：東京都江戸東京博物館

再オープン日：2018 年 4 月 1 日（日）

開館時間：平日 9:30～17:30（土曜日は 9:30～19:30）※入館は閉館の 30 分前まで

休館日：毎週月曜日（月曜が祝日または振替休日の場合はその翌日）、年末年始

所在地：東京都墨田区横網一丁目 4 番 1 号

常設展観覧料（企画展観覧料を含む）

一般： 600 円 / 480 円（20 名以上の団体）

大学生・専門学校生：480 円 / 380 円（20 名以上の団体）

高校生・中学生（都外）・65 歳以上：300 円 / 240 円（20 名以上の団体）

都内在学または在住の中学生・小学生・未就学児童：無料（個人・団体共通）

アクセス

JR 総武線 両国駅西口下車 徒歩 3 分

都営地下鉄大江戸線 両国駅（江戸東京博物館前） A3・A4 出口 徒歩 1 分

公式 WEB サイト：<https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/>